

## 教員の総合業績(基礎資料)調査 氏名 ( 長崎健 )

### 1 研究業績

1) 著書・論文・学会発表・作品など(平成12-18年度に限る)

例:(欧文の場合は、原文 **alphabet** で記入してください)

#全著者あるいは作者名(自己にアンダーライン、単著の場合はアンダーライン不要)

&著書、学術論文又は作品の名称

\$発行所(総頁数)、発表雑誌又は発表学会(号・巻・pp・年月)、展覧会(場所・期間)などの名称

さらに、特別講演・シンポジウム(招待講演)・一般講演など(地方支部会・全国大会・国際会議)の別

註:学会・展覧会など、専門分野以外の人に分りにくい場合は、できるだけその社会的位置づけ、歴史、規模などの簡潔な説明を付してください

論文

#寺沢憲吾, 長崎健, 川嶋稔夫

&スケールに依存しない局所特徴量の誤差評価と画像検索への適用

\$電子情報通信学会論文誌分冊 D2 VOL. J88-D-2 NO. 8, P. 1720~P. 1728

#寺沢憲吾, 長崎健, 川嶋稔夫

&固有空間法と DTW による古文書ワードスポットティング

\$電子情報通信学会論文誌, D, 情報・システム VOL. J89-D NO. 8, P. 1829~P. 1839

#秋田純一, 高木 宏章, 長崎健, 戸田真志, 川嶋稔夫

& Vision Chip Architecture for Detecting Line of Sight Including Saccade

\$ IEICE Transaction on Electronics Col. E89-C, No. 11, P. 1605~P. 1611

国際会議

#Takanori Terashima, Masashi Toda, Takeshi Nagasaki, Toshio Kawashima,

&Unperceivable Text Switch during Sacade

\$Proc. of International Symposium: Toward a Development of KANSEI Technology(KANSEI2001), pp. 103-108, 2001.

#Takeshi Nagasaki, Masashi Toda, Toshimasa Iijima, Toshio Kawashima,

&Extracting Personal Behavior Based on Snapshot Sequence

\$Proc. of International Symposium: Toward a Development of KANSEI Technology(KANSEI2001), pp. 145-148, 2001.

#Toshio Kawashima, Takeshi Nagasaki, Masashi Toda,  
&Information Summary Mechanism for Episode Recording to Support Human Activity  
\$Proc. of International Workshop on Pattern Recognition and Understanding for Visual  
Information Media, pp.49-56, 2002.

#Takanori Terashima, Masashi Toda, Takeshi Nagasaki, and Toshio Kawashima,  
&Insensible Text Modifications during Saccades  
\$Proc. of The Second Asian Conference on Vision(ACV2002), pp.91, 2002.

#Masashi Toda, Takeshi Nagasaki, Toshimasa Iijima, and Toshio Kawashima,  
&Structural Representation of Personal Events  
\$Proc. of ISPRS International Workshop on Visualization and Animation of Reality-based 3D  
Models, 2003.

#Takeshi Nagasaki, Masashi Toda, Toshimasa Iijima, Toshio Kawashima  
& Grouping Viewpoint Image into Scenes Based on Similarity between Frames  
\$ Proc. of Visual Communications and Image Processing 2003 (VCIP2003), 2003.

# Masashi Toda, Takeshi Nagasaki, Toshimasa Iijima, Toshio Kawashima  
& Episode Image Analysis for Wearable Daily Life Recording System  
\$ Proc. of Visual Communications and Image Processing 2003 (VCIP2003), 2003.

#J.Akita, H.Takagi, T.Nagasaki. M.Toda, T.Kawashima, A.Kitagawa  
&Vision Chip Architecture for Saccade Tracking  
\$Proceedings of 2005 IEEE Workshop on Charge-Coupled Devices and Advanced Image Sensors,  
P23, pp.133-136, 2005.6

#Kengo Terasawa, Takeshi Nagasaki, Toshio Kawashima  
& Eigenspace Method for Text Retrieval in Historical Document Images  
\$8th International Conference on Document Analysis and Recognition, pp427-441

# Kengo Terasawa, Takeshi Nagasaki, Toshio Kawashima  
&Robust Matching Method for Scale and Rotation Invariant Local Descriptors and Its Application  
to Image Indexin  
\$ Second Asia Information Retrieval Symposium (AIRS 2005)

学会発表

#長崎健、飯島俊匡、川嶋稔夫、守田了、

&”日常生活映像からのエピソードの要約”,

\$電子情報通信学会 2000 年情報・システムソサイエティ大会, 2000 年

## 研究会

&宮崎隆, 長崎健, 川嶋稔夫, 青木直由,

&“紙の変形を考慮した机上文書のハンドリング”,

\$電子情報通信学会技術研究報告 PRMU2000

#長崎 健, 戸田 真志, 川嶋 稔夫,

&”日常生活における行動記録映像の構造化”,

\$ 電子情報通信学会技術研究報告, PRMU2002-164, pp. 109-114, 2002.

#戸田 真志, 長崎 健, 飯島 俊匡, 川嶋 稔夫,

&”日常生活における記録映像の要約呈示”,

\$電子情報通信学会技術研究報告, PRMU2002-165, pp. 115-120, 2002.

#長崎健, 戸田真志, 川嶋稔夫

&局所特徴量による画像類似度を用いた視線映像の構造化

\$映像情報メディア学会 情報センシング研究会・メディア工学研究会, 2003

#藤間淳, 長崎健, 川嶋稔夫, 田中譲

&局所特徴量を用いた画像認識による実世界オブジェクトに対する関係アノテーションシステムの構築

\$画像認識・理解シンポジウム 2004

#寺沢憲吾, 長崎健, 川嶋稔夫

&固有スケールを加えた局所特徴量による画像検索

\$画像認識・理解シンポジウム 2004

#寺沢憲吾, 長崎健, 川嶋稔夫

&古文書画像を対象にしたワードスポッティング

\$画像認識・理解シンポジウム 2005

#長崎健, 秋田純一, 戸田真志, 川嶋稔夫

&急速眼球運動を考慮した視線位置計測システム

\$第 10 回 パターン計測シンポジウム ～人と世をつなぐパターン計測～ (計測自動制御学会)、  
2005、P. 9～P. 14

#杉野宏典, 長崎健

&局所特徴量を用いたウェアラブルカメラ映像の分析

\$電子情報通信学会技術研究報告, TL2005-60, PRMU2005-195, pp.67-72

#長崎健, 秋田純一、戸田真志、川嶋稔夫

&サッカー観測のための視線検出方法

\$電子情報通信学会技術報告, PRMU2006-49, P. 1~P. 6

#長崎健, 秋田純一、戸田真志、川嶋稔夫

&頭部の移動を考慮した視線の検出

&電子情報通信学会技術報告, WIT-2006-41, P. 51~P. 56

2) 学会活動 (役員・会員)、学会の組織運営、学会誌の編集委員など (平成 12-14 年度に限る)

例:

#学会などの名称

&編集委員長又は委員などの別

\$ 任務期間 (年月)

註: 専門分野によっては適宜変更 (例えば、学会を展覧会などと記す)・追加説明を付してください できれば展覧会・学会などについても社会的位置付け、歴史、規模などの簡潔な説明を添えてください

#日本ソフトウェア科学会

&第 18 回大会運営委員

\$平成 13 年 4 月から平成 13 年 9 月まで

#ACM

&国際大学対抗プログラミングコンテスト実行委員

\$平成 13 年 4 月から平成 13 年 12 月まで

#電子情報通信学会

&「画像認識・理解シンポジウム 2004 (MIRU2004)」の現地組織委員

\$平成 16 年 5 月から平成 16 年 7 月まで

3) 研究費獲得状況 (未来大学外からの財源) (科学研究費、財団助成金、委任経理金など (平成 12-15 年度に限る))

例：

#平成12-(13)年度

&財源、たとえば科学研究費補助金

\$研究課題名

%代表者、分担者の別、研究課題参加者数、あるいは〇〇研究所との共同研究（相手機関の協同研究者数など）

¥研究経費（例：平成12年度：800千円、平成13年度：500千円）

#平成12－13年度

&科研費特定領域B：「視覚情報メディアのためのパターン認識・理解」

\$知的活動支援を目的としたエピソード映像記録のための情報要約機構

%分担者，3名

¥平成12年度：8500千円，平成13年度：7500千円

#平成14-15年度

&科研費若手(B)

\$「ヘッドマウントカメラ映像から得られたシーン列による行動パターンの自動獲得」

%代表者，1名

¥平成14年度：130千円，平成15年度：100千円

#平成14－(18)

&知的クラスター創成事業 「札幌ITカロッツェリア」

%分担者，12名

¥平成14年度：12000千円

#平成15－17年度

&科学研究費補助金 基盤研究(B)

\$急速眼球運動によるユーザインターフェイスのための画像処理LSIセンサの試作

%分担者，4名

¥平成15年度：4200千円，平成16年度：1400千円，平成17年度：1400千円

#平成17-18

&科研費若手(B)

\$多人数のヘッドマウントカメラ映像と環境観測情報の統合による個人行動情報の獲得

%代表者，1名

¥平成17年度：1900千円，平成18年度：900千円

4) その他（特許、内地研究（学内共同研究は除外）および在外研究歴と成果など特記すべきこ

と。本項目は平成 12-14 年度に限定しない。）

特になし

## 2 教育業績

1) 教育負担の実態（複数教員で担当する科目の場合は、貴方の分担分のみ）本項目は時間割に含まれた教科（補講・補習など教室で行なったものは含む）を調査の対象としております。従って、〇〇研究会、〇〇同好会など、各教員室他で行なったものは、対象外とします。試験やレポートなどの採点時間も除外します。

例：

#科目名（講義・演習・実習・補講の別）、単位数・必修/選択の別、担当教員数（単独の場合は不要）

&実施期間（平成 12 年度前期、あるいは平成 13 年 10-11 月）、実施コマ数（休講しても補講で補えば算定する）、補講をしなかった休講回数（例：実施 13 コマ、休講 2 コマ）

\$実働時間数（全て、実時間合計(推定)値でお願いします）、演習などは一コマ 1.5 時間を超えていると思われるので、そのような場合は、たとえば一コマ 2.2 時間などと算定してください（例：実働 22.5 時間）

%受講登録学生数（例：45 名）、平均的出席者数（例：38 名；初めは 40 名、終りは 25 名など）、単位認定（合格）者数

註：本項目はできるだけ正確にお願いしたいですが、概数でも結構です 記述がない場合は 0 と判断します

#情報機器概論（講義、2 単位、必修）

&実施期間：平成 12 年度前期

\$実施コマ数：実施 13 コマ、休講 2 コマ、実働 19.5 時間

%受講登録学生数：84 名、単位認定者数：84 名

#プログラミング演習（講義、2 単位、必修）

&実施期間：平成 12 年度前期

\$実施コマ数：実施 14 コマ、休講 0 コマ、実働 48 時間

%受講登録学生数：42 名、単位認定者数：42 名

#プログラミング演習（講義、2 単位、必修）

&実施期間：平成 12 年度後期

\$実施コマ数：実施 13 コマ、休講 0 コマ、実働 45 時間

%受講登録学生数：42名、単位認定者数：42名

#プログラミング演習（講義、2単位、必修、8名で担当）

&実施期間：平成13年度前期

\$実施コマ数：実施13コマ、休講0コマ、実働45時間

%受講登録学生数：42名、単位認定者数：42名

#オペレーティングシステム（講義、2単位、アーキ：必修、複雑：選択）

&実施期間：平成13年度後期

\$実施コマ数：実施13×3コマ、休講2×3コマ、実働58.5時間

%受講登録学生数：221名、単位認定者数：192名

#プログラミング演習（講義、2単位、必修、）

&実施期間：平成14年度前期

\$実施コマ数：実施14コマ、休講0コマ、実働時間42時間

%受講登録学生数：48名、単位認定者数：45名

#オペレーティングシステム（講義、2単位、必修）

&実施期間：平成14年度後期

\$実施コマ数：実施13×2コマ、休講2×2コマ、実働39時間

%受講登録学生数：170名、単位認定者数：149名

#システム管理方法論（講義7回・演習7回、2単位、アーキ：選択、複雑：必修、3名で担当  
（アーキ1コマ担当+演習補助12回））

&実施期間：平成14年度前期

\$実施コマ数：実施14コマ、休講1コマ、実働時間42.5時間

%受講登録学生数：57名、単位認定者数：53名

#プログラミング演習（講義、2単位、必修、）

&実施期間：平成15年度前期

\$実施コマ数：実施14コマ、休講0コマ、実働時間34.5時間

%受講登録学生数：43名、単位認定者数：40名

#オペレーティングシステム（講義、2単位、必修）

&実施期間：平成14年度後期

\$実施コマ数：実施13×2コマ、休講2×2コマ、実働39時間

%受講登録学生数：170名、単位認定者数：149名

#システム管理方法論（講義7回・演習7回、2単位、選択）

&実施期間：平成14年度前期

\$実施コマ数：実施14コマ、休講1コマ、実働時間26時間

%受講登録学生数：60名、単位認定者数：47名

#プログラミング演習（講義、2単位、必修、）

&実施期間：平成15年度前期

\$実施コマ数：実施14コマ、休講0コマ、実働時間34.5時間

%受講登録学生数：39名、単位認定者数：39名

#オペレーティングシステム（講義、2単位、必修）

&実施期間：平成15年度後期

\$実施コマ数：実施15×2コマ、休講0コマ、実働45.5時間

%受講登録学生数：171名、単位認定者数：151名

#システム管理方法論（講義7回・演習7回、2単位、選択）

&実施期間：平成15年度前期

\$実施コマ数：実施14コマ、休講1コマ、実働時間26時間

%受講登録学生数：44名、単位認定者数：41名

#プログラミング演習（講義、2単位、必修、）

&実施期間：平成16年度前期

\$実施コマ数：実施14コマ、休講0コマ、実働時間34.5時間

%受講登録学生数：48名、単位認定者数：42名

#オペレーティングシステム（講義、2単位、必修）

&実施期間：平成16年度後期

\$実施コマ数：実施14×2コマ、休講1コマ、実働42.5時間

%受講登録学生数：176名、単位認定者数：157名

#システム管理方法論（講義7回・演習7回、2単位、選択）

&実施期間：平成16年度前期

\$実施コマ数：実施14×2コマ、休講1コマ、実働時間52時間

%受講登録学生数：112名、単位認定者数：82名

#プログラミング演習（講義、2単位、必修、）

&実施期間：平成17年度前期

\$実施コマ数：実施14コマ、休講0コマ、実働時間34.5時間

%受講登録学生数：47名、単位認定者数：42名

#オペレーティングシステム（講義、2単位、必修）

&実施期間：平成17年度後期

\$実施コマ数：実施14×2コマ、休講1コマ、実働42.5時間

%受講登録学生数：176名、単位認定者数：157名

#システム管理方法論（講義7回・演習7回、2単位、選択）

&実施期間：平成17年度前期

\$実施コマ数：実施14×2コマ、休講1コマ、実働時間52時間

%受講登録学生数：112名、単位認定者数：82名

#プログラミング演習（講義、2単位、必修、）

&実施期間：平成18年度前期

\$実施コマ数：実施14コマ、休講0コマ、実働時間34.5時間

%受講登録学生数：50名、単位認定者数：41名

#システム管理方法論（講義7回・演習7回、2単位、必修）

&実施期間：平成18年度前期

\$実施コマ数：実施13コマ、休講1コマ、実働時間33時間

%受講登録学生数：85名、単位認定者数：82名

#オペレーティングシステム（講義、2単位、必修）

&実施期間：平成18年度後期

\$実施コマ数：実施13コマ、休講1コマ、実働32時間

%受講登録学生数：95名、単位認定者数：72名

#コンピュータアーキテクチャ（講義、2単位、必修）

&実施期間：平成18年度前期

\$実施コマ数：実施14コマ、休講0コマ、実働時間35時間

%受講登録学生数：74名、単位認定者数：62名

2) 成績評価方法 (その方法を具体的に記載・学生 (社会) が納得するような具体的説明。)  
また、複数の教員で担当する科目の場合は、取りまとめの方法についても記述してください。

1. 情報機器概論

- ・ 授業中に提出するレポート 50%, 最終課題 50%で評価した.
- ・ 授業内容については, 担当者間で相談をし, 共通の話題を取り上げ, 同様の課題を提供した.

2. プログラミング演習

- ・ 授業中に提出する課題(100%)で評価する.

3. オペレーティングシステム

- ・ 冬休みの課題 5%, 最終試験 95%(H12 年度)
- ・ 最終試験 100% (H13 年度から)

4. システム管理方法論

- ・ 演習のレポート 60%, 技能検定試験 40%

5. コンピュータアーキテクチャ

- ・ 最終試験 100%

3) 講義方法など改善への努力 (FD 関連の講演会などの聴講回数、教育内容とそれらの効果について貴方が行われた事柄・目標を具体的に記述して下さい)。

- ・ 講義フィードバックシステムを用い, 理解しやすいように授業資料の内容等を変化させた.

4) その他 (上記以外に特記すべきことがありましたら、簡潔かつ具体的に、箇条書きなどで記述してください。特に、貴方が作られたシラバスと現在教務委員会で検討されている (コース別) 講義内容・目標、あるいは JABEE などとの関連、並びに貴方が担当されている科目の位置付けなどについてご意見があれば記して下さい。また、本学は教員の専門分野が多岐にわたっているため、相互理解を目的としたコース特有の問題点や、皆さんの教育に対する抱負などを記述して戴いても結構です。)

特になし

### 3 大学の管理運営

各種委員会（委員長・委員、クラス担任、学習指導・生活指導、クラブ活動の顧問等の実績（具体的に記述してください、できれば実働延べ時間数など）、その他。

- ・ 1-C(H13年度), 2-E (H14年度), 1-E (平成15年度), 2-E (平成16年度) 1-E (平成17年度) 2-E(平成18年度) クラス担任,
- ・ システム委員会委員 (H11年度から H15年度まで)
- ・ 情報ライブラリ委員会委員 (H14年度から H15年度まで)
- ・ プロジェクト学習 WG 委員 (H14年度3月から H15年度まで)
- ・ ポートフォリオ WG 委員 (H14年度1月から H15年度まで)
- ・ 自己評価委員会 委員 (H16年度から平成17年度まで)
- ・ 自己評価 TF 委員 (H16年度から平成18年度まで)
- ・ オープンキャンパス WG (平成17年度)
- ・ 自己評価委員会 委員長(平成18年度から)
- ・ ホームページ WG 委員(平成18年度から)

### 4 その他

資格（技術士など）、地域への貢献（地域自治体審議会、委員会等の役員、委員。地域との共同研究・技術相談。公開講座・出前授業・市民向け講演）あるいは提言・御意見など